

## 平成26年度第3回精神障害者地域移行推進部会議事概要

平成26年8月8日（金）

18時～20時

本庁舎5階大会議室

出席者：富沢部会長、寺田副部会長、池澤委員、岡田委員、奥山委員、川村委員、  
木村委員、国分委員、酒井委員、鈴木委員、飛田野委員、三好委員

### 1 開会

### 2 議題

#### (1) 第五次千葉県障害者計画

(事務局から資料について説明)

これまで部会などでいただいた意見や、家族会からヒアリングした内容も盛り込んで作成した。現状と課題は事務局で記載した。

(富沢部会長)

これまで部会で議論した内容もあるが、全然議論してきてない部分もある。何度も言われた住む場所は他の部会での位置付けとなっているが、必要な論点は出していただきたい。

(木村委員)

病床転換型居住系施設が厚労省で決定した。これをどういう風にしたら良いか、県では長い間病院の敷地内でのグループホームを認めてこなかった経緯があり、大変大きな問題なので当推進部会でも議論が必要。居住福祉の充実について、サービスの通所利用が難しい、ひきこもっていて日中支援が必要な障害者等を、精神障害者の問題として再度提言したい。高齢者を抱えたグループホームの問題として、認知症や看取りも含めた問題課題がある。福祉医療制度の提言として、精神障害者入院医療費助成制度、自立支援医療等があるが、更に拡大が必要。病院は受け皿がないから退院できないと言っているが、地域移行者を病院が出せば地域にグループホームを創っていくことは、やろうと思えばでき、多くの先例もある。精神障害者入院医療費助成制度に関しては千葉県として助成をやっていただきたい。

(国分委員)

木村委員から言われた福祉医療制度、一般科医療の助成は、家族会の中でも望む意見が大きい。

(三好委員)

入所地域移行 WT だが、退去者への支援。医療観察法はあまり関係がなく、強化した方がいいと思う。グループホームが足りないこともあると思うが、感じるのは医療関係者

がグループホームに入らなければ退院しない、という意見が強い。アパートが空いており、入れてくれる大家はいる。検討していただきたい。

(木村委員)

保証人とアパートの問題。創設は土地や建物の手配が大変。県や国への申請書類には地域への説明会も求められる。賃貸は、信頼で空き家を紹介してくれる不動産もある。色んな道があり、地域にグループホーム等の受け皿を創ることは十分可能。

(飛田野委員)

7の引きこもりについて。地域生活支援センターがあり、相談件数を目標としているが、いかに専門機関として充実させるかが大切。専門機関としてレベルアップし、効果のあるアウトリーチが必要。そういったところを改善する必要がある。

(木村委員)

中学校で登校拒否、高校中退後は、誰も補足していない。引きこもりの方が受診するまでに時間がかかる。早期発見の方策を考えるべき。

(国分委員)

学校教育の場に精神障害者の教育が昭和50年代前半あたりまであったと聞いている。その後精神障害者の関係の教育がなくなった。中学・高等教育の中に再開してほしい。

(酒井委員)

ピアサポートの推進、養成に努める、とあるが、支払うお金、財源、仕組みを考えないと進まないと思う。クライシスハウスを強化してほしい。精神科医療の救急について、具合の悪い人が入院できず、付き添い、大変な思いをしている。身体合併症については、入院して身体疾患の治療が終了した後、本人、家族に退院した後の心配がある。

(木村委員)

当事者で精神保健福祉士の資格を取った人が一人いるが、中々雇用できない。雇用した際の財源について。

(酒井委員)

地域移行のケアマネだけでは手が足りない。誰もお見舞いに行っていないような患者もいる。病院にお見舞いに行く、一緒にお茶を飲む・食事をするなどは、職員よりピアサポーターの方が歓迎される。地域に出た先輩に色々なことが聞ける、ということで、いい効果が上がった。ピアサポーターへの支払いは、単なる補助金でなく、「こんな仕掛けをすればこんな風に出せる」ということを考えながらやっていくと、増やせるのでは。

(寺田部会長)

障害者雇用という仕組みで推進できないか。特定職域開発事業を活用すれば1/3位は補助される。あるいは雇用率にも算定される。

(富沢部会長)

国際的にもピアの力は強いと認められている。

(寺田副部長)

ピアの人が住み込みの世話人をやったりした。それなりに効果がある一方、雇用という厳しい現実がある。本人のサポートが必要。効果は効果として評価すべきと思う。あとは工夫の問題がある。

(木村委員)

ピアが病院に入っていく場所が少ない。病院がベットを削減すれば地域に地域社会資源ができ、地域が育った。モデルをどうやって作るか。ピアの活動の場がない。

(岡田委員)

地域移行を進めるには、一般市民への障害の理解を盛り込む必要があるのでは圏域でフォーラムをやっている地域、ない地域がある。学校教育等、市民が少しでも理解を示せば、推進につながる。

(国分委員)

イベントとして県でフェスティバル、フェアをやっている。地方紙、新聞に入れる等すれば、一般市民にも広報ができる。

(奥山委員)

単身生活者の支援。ケアマネがプランを作成するが、バラバラで出来高がいいとはいえ、地域活動センターで言えば新しく作れない自治体もある。サービスの拡充について。

(酒井委員)

定着サービス自体、「1年たってもサービスに繋がらないから切ります」と言われている。繋がらないからこそ、定着でみる必要がある。人を恐れ、定着だけでぶら下がっている人がいる。それで、入院までいかない人もいる。定着の価値を行政に理解してもらう必要がある。

(寺田副部長)

相談支援体制への問題提起と思う。総合支援法による指定相談支援事業所は地域相談、計画相談と制度上分かれている。事業所の性格をもう一つ大きく分けると、市町村から委託を受けている所、委託を受けていない所とがある。委託を受けている相談支援事業所は出来高払いではないという大きな特徴がある。この活用が、市町村の中で全体的にバランスを取れた形で市内に配置されたら。そうすると受け皿の相談支援事業所は出来高に追われることなく、サービスに直接結びつける必要もなく、相談対応ができるという、現在の制度でもかなり有効に活用できる。あるいは、地域活動支援センターが設置できなくても、委託を受けている活動を有効に機能する部分があると思う。

## (2) 平成27年度重点事業

(富沢部長)

東日本大震災の際の心のケアチームの記録を作っておくべき。DPATはその報告集を整備することが議論のスタート。報告集や資料集でも良い。

(寺田部会長)

グループホーム等の質・量的な充実が必要。数値目標のみでなく、具体的な方策を掲げ、実際に運用していくことが必要。消防法、建築基準法におけるグループホームの取扱を一般住宅とする。改修工事について十分な手当てをする。住民同意が必要というところから、説明会になった。かなりの進展があった。説明会を不要とすると、地域との関係を何もしないで進めてしまう事業者が出ないかな、という心配もある。

(木村委員)

民生委員に話せば良いとか、方法はある。今の方法ではきつい。

(岡田委員)

グループホームをつくる時は、地域の利便性を考えると、一定の地域に集中してしまう。他の施設もそうだが、身近な所にあるとないとでは違う。鴨川、鋸南に出張サービスをしている。身近な所で使える施設が、各市にあると良い。

(鈴木委員)

グループホームの条件は、今年度内実現の方向でいければと思う。地域住民の説明は大変。精神障害や病気を持っている人もいるので、あるところまで議論していくと、どう共同して生きていくかという課題に折り返す。コミュニケーションを取りながら運営をしていきましょう、というのが収まりどころ。厳しい条件があるが、全員の実現は不可能。スプリンクラー問題は、全国のグループホームの動きに水をかけた。運営に問題のある施設があったのは事実だが、何とか切り替えないといけない。

(富沢部会長)

踏み込んだ表現にしていきたい、というのが共通見解。

(酒井委員)

設備もそうだが、グループホームを福祉以外の分野が作っている。精神に関係のない所がつくる場合、どこまでやってくれるか未知数。体制作りをきちんとやっていくべき。グループホームはどれだけの支援が必要か理解しているのか、確認する必要がある。

(寺田副部会長)

高齢者のグループホームは福祉以外のものが主力になっている。就労系は異業種からの参入が起こっているが、不正受給もあった。はっきり見える部分の条件等はいいが、処遇のノウハウ、支援の考え方などは監査で分かりにくい。そういったところをどうするのかしっかり議論していくべき。非常に難しい部分。グループホームで異業種ゆえの問題が起きてしまう。参入してきた所は、定員を集めるのに素早い。行政も、受け入れてもらえるので、どんどん送りこんでしまう。チェックが課題。

(国分委員)

地域移行・定着は、受け皿の話が多いが、家族が抱えている問題に目を向けてほしい。入院されてない方は家族が支援していることが多い。その家族が高齢化している。家族への支援としては、訪問医療、訪問看護を取り上げてほしい。

(三好委員)

地域相談の定着について入れてほしい。定着だけで繋がっている人も多い。

(富沢部会長)

地域移行では、ピアサポーターの力が大きいことは、広く知れ渡ってきている。賛同得られれば、深い協議を。

(木村委員)

ピアサポーターがどんな役割を果たし、どんな仕事をし、どんな給料をもらっているか、

(富沢部会長)

これからピアサポートの方にヒアリングをする機会がある。そういった面も含めて聞いてほしい。

(事務局)

地域移行の事業の中で、ピアサポートの活用、ということで運用されている場合もある。

ピアサポーターの活用含めて、圏域連携コーディネーターの方に御支援いただくような形にもなる。現状、各圏域の中でピアサポーターを活用されている所もある。活用ということでは、地域移行の中の要綱上には含まれている。

(木村委員)

高齢者をグループホームに受け入れた時どうするか。認知症になった時など、対策をどうするか。

(富沢部会長)

高齢入院患者地域支援事業を3圏域で実施中。適切な時期に中間報告を。

(川村委員)

ピアサポーターのヒアリングについては、事業者側のみでなく、自然発生的ピアサポートの意見も聞いてほしい。

### (3) その他

#### ・精神障害者地域移行・定着支援に関するアンケート結果について

(木村委員)

地域移行が可能な方について触れているが、これを元に訪問をしたいが、そういうことはできないのか。

(事務局)

各圏域で実施している精神障害者地域移行支援協議会もしくは圏域連携コーディネーターの方を通じてお願いしたいと考えている。そこで、病院にどう働きかけるか協議していただきたい。

(寺田副部会長)

一桁の数字もあれば、まとめて何十人という数字もある。極端に分かれる。

(木村委員)

実際に出てくる方は殆どいないのでは。

(富沢部会長)

判断する人、立場により変わってくるのでは。まずは数字が出ただけでも違うと思う。印象的なのは、地域移行・定着協力病院に該当する場合、指定を希望する病院がかなりある。後ろ向きな病院も、こうやって指定することで同じ土俵に上がってくれる可能性がある。これを見ただけでも変わってきた、という印象を持つ。

(木村委員)

県の協力してくれる病院、ということで大々的に公表をしてほしい。

(富沢部会長)

今後の進め方で、指定し、公表する方向性。

(池澤委員)

これ自体は遠隔地支援を進めるためのツールになるものと思う。これを使って各圏域の協議会で実際に候補となってくる方が上がってくる。是非その経過、進捗を今後も出来ればこまめに報告を。

(事務局)

アンケートの結果により数の予測は立てられると思うが、病院によっては捉え方が色々あると思うので、実際の指定の基準についての御意見を頂く中で、最終確認を行政がすべきことと思う。

(鈴木委員)

このアンケートは、この間検討したような、最終的に緩和した要件に基づいて回答をもらったものではない。また詰めてみる必要があるかもしれない。理由はあると思う。